

2-11	思考力・判断力・表現力を問う記述式評価問題 (キラリチャレンジテスト)の活用
------	---

1 実施方法

- 週1回業間の15分間で実施。または、学校行事後などの事後指導の時間に実施。
- 採点・評価は、学力向上推進主任が行う。学級担任と連携を取り合い、個別指導を行う。
- ワークシートは個別のファイルに蓄積し、評価等に役立てる。

2 各学年の目標

- 低学年（1・2年） 自分の思いや考えを表現する。
- 中学年（3・4年） 条件に従って、自分の思いや考えを表現する。
- 高学年（5・6年） 条件に従って、自分の思いや考えを豊かに表現する。

3 評価問題の一例

- 「きのうのよるごはん」というテーマで作文をかきましよう。
- 「クラスのしょうかい」というテーマで新聞の記事をかきましよう。
- 「あさごはんは、ごはんがいいか、パンがいいか。」というテーマで作文をかきましよう。

4 採点方法と評価

- ① 条件に沿って書かれていること
- ② 文字数が適当であること
- ③ 内容が充実していること
- ※ 得点に換算し、個人別にデータを残していくことで自己評価に役立てる。

<p style="text-align: center;">アドバイス</p> <p>「はじめるー中ーおわり」の文章構成 せりふはまちりでできています。 二だんらく。つまり中の理由のミツ と「三つめります。」二日は「三つめ ミラは「三つめります。」二日は「三つめ ミラは「三つめります。」二日は「三つめ</p>		<p style="text-align: center;">条件</p> <p>① 百六十文字～二百文字の字数で書く。 ② 文章構成を「はじめー中ー終わり」になるようにする。 二段落には自分の意思を表示し、二段落にはその理由を、 三段落にはまとめを書く。</p>
--	--	--

キラリチャレンジテスト（五月二十九日）

五年 名前（ ）

資料1 5月に実施したワークシート

5 成果

毎回アドバイスを記入することで、次回の作文の際、そのアドバイスを参考にしながら、より条件に沿った文章を書こうとする児童が増えてきた。また、週に1回ずつ実践し、継続的な指導を行うことで、書くことへの抵抗感も減り、決められた時間の中で書けるようになってきた。さらに、題や書き出しの工夫、構成の仕方などを条件の中に組み込んでいくことで、より豊かな文章表現力が身に付いてきたように思う。